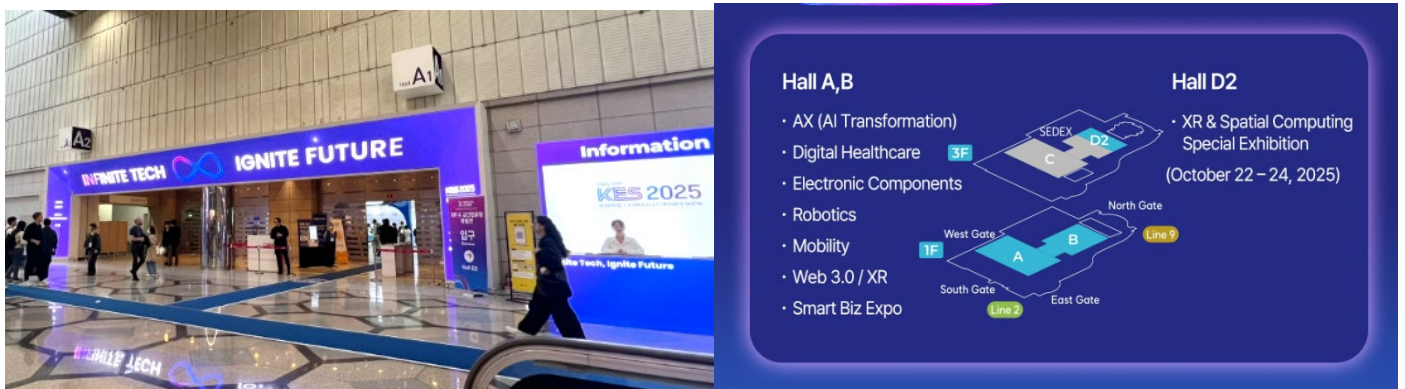


韓国最大級のエレクトロニクス展示会「KES 2025」を訪問しました

2025年10月、ソウル・COEXで開催された韓国最大級のエレクトロニクス展示会 KES 2025 (Korea Electronics Show) を訪問しました。

1969年にスタートし、今年で56回目を迎える歴史ある展示会で、韓国のエレクトロニクス・IT産業の現在と未来を体感できるイベントです。

会場にはAI、モビリティ、ロボティクス、XR、デジタルヘルスなど幅広い分野の企業が集まり、最新技術やソリューションが紹介されていました。



産業の活力を感じる展示構成

展示はテーマごとにエリア分けされ、電子部品・材料分野を中心に、AIやロボティクスなど成長領域の出展も多く見られました。3m×3m規模の小型ブースが整然と並び、スタートアップや研究開発系企業の展示も目立ち、技術開発の現場に近い雰囲気を感じられます。



会場ではビジネスマッチングを重視した構成が印象的で、専用の商談エリアやミーティングスペースは多くの来場者で賑わっていました。

大手企業の存在感と来場者の関心

Samsung や LG Electronics といった韓国を代表する企業は大規模ブースを展開し、AI やスマート家電などのソリューション展示で来場者の注目を集めていました。

特に大型ディスプレイやインタラクティブな展示は人だかりができ、来場者が体験しながら理解するスタイルが特徴的でした。



若い来場者と産学連携の広がり

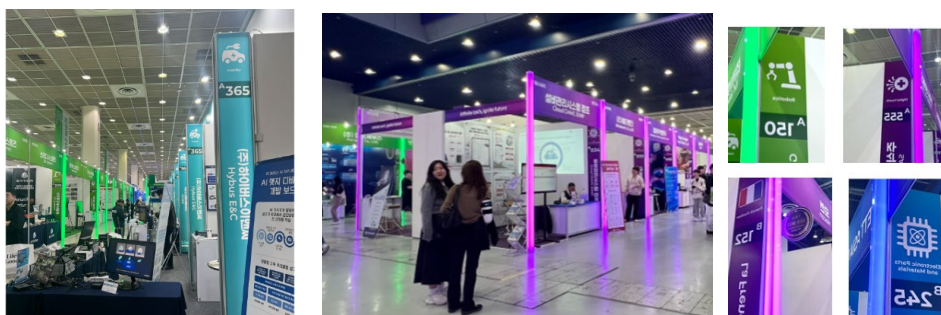
会場では学生グループの来場も多く見られ、企業ブースを熱心に見学する姿が印象的でした。

大学や研究機関、地方自治体によるパビリオン出展もあり、産学官連携を意識した構成となっている点も特徴です。



わかりやすく統一感のある会場デザイン

小型ブースエリアでは LED ライトポールが組み込まれた構造が採用され、ゾーニングと視認性を両立したデザインが印象的でした。エリアごとにカラーやピクトグラムで分類されており、来場者が目的分野を探しやすい工夫が見られました。



韓国エレクトロニクス産業の現在地を体感

KES は長い歴史の中で韓国のエレクトロニクス産業とともに発展してきた展示会であり、技術トレンドだけでなく産業構造や企業の方向性を感じられる場でもあります。

今回の訪問を通じて、AI やモビリティなど新領域への展開と、部品・材料分野の強みの両面から韓国産業の現在地を体感することができました。 海外の展示会を訪れると、各国の産業の特徴や技術の潮流、展示手法の違いなど多くの発見がありますね。

■ おまけ：漢江で体験した“韓国ラーメン”の楽しみ方 ■

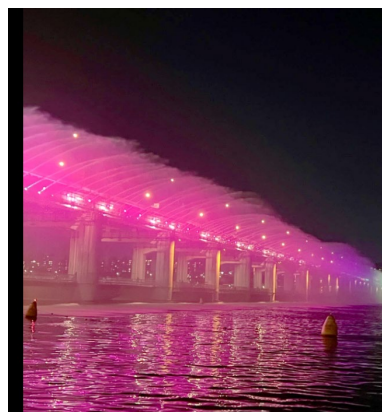
日暮れ後のソウル市内を流れる漢江（ハンガン）周辺にも立ち寄りました。

川沿いの公園エリアにはコンビニが点在しており、韓国ではおなじみのインスタント袋麺が豊富に並んでいます。

袋麺と卵を購入すると専用容器が提供され、店外に設置された自動ラーメン調理機にセットするだけで、数分後には熱々のラーメンが出来上がります。

肌寒い屋外で食べる辛いラーメンは格別で、まるで韓国ドラマのワンシーンのような雰囲気を楽しむことができました。

噴水ショーをバックに川沿いのピクニックテーブルでいただく初めての“漢江ラーメン”を体験は、展示会視察とはまた異なる現地ならではの文化に触れるひとときとなりました。



(記 岩口摩理子)

M.I.Office は、国際会議・展示会・イベントの企画運営を通じて、国内外のビジネス交流と価値創出を支援しています。

活動レポートでは、スタッフが現場や訪問先で得た気づきやトレンドをご紹介します。